



西宮市長選は激戦の見通し 注目ポイントはここ!必ず投票しましょう

今年春の西宮市長選挙には、複数の陣営が出馬する意向を表明しており、激しい選挙戦になりそうです。誰が新市長になっても直面する市政の重要な課題をまとめました。私はこれら注目ポイントを軸に候補予定者の論戦に耳を傾けたいと思います。市の将来を左右する重要な選挙です。必ず投票しましょう。

行政改革

西宮市議会議員 かんの雅一まさかず

本市には防災や子育て支援、教育、福祉などの充実すべき政策課題が多く、実施するためには財政的な裏付けが必要です。今後も社会保障関係経費が増大する一方で、市税収入の伸びが期待できず、財政状況は厳しくなる見通しです。このため、行政コストの削減、とりわけ他市に比べて多いと指摘される職員の人員費の削減は不可欠です。今村市長は公約に逆行するように職員定数を計150人増やして3946人にしてしまった。行政需要の高まりに伴って職員の仕事量は増えており、放置すれば、職員定数をさらに増やすという動きが強まりそうです。

市は将来、人口減少が見込まれ、財政状況が厳しくなることから、公共施設の総延べ床面積を20年間で10%削減する目標をたてています。しかし、削減に向か具体的な計画の策定作業は進んでおらず、実態としては総延べ床面積は増加傾向です。

公共施設の削減

地域志向の行政への転換

施設削減のためには施設を統廃合し、学校などの施設を多目的に利用できる制度づくりが必要ですが、教育委員会を含めた各部局の縦割りが大きな壁になります。こうした課題を克服するためには、新市長の強い指導力と調整力が必要です。

一方、市当局にとっては行政サービスへの市民のニーズが多様化し、複雑になっています。そのため、全市一律的な政策を局部ごとの縦割りで実施する現在の体制では対応が難くなっています。こうした状況を開拓するため、市と各地域の住民が地域の実情に合わせた施策を考えたり、市と地域が連携して地域課題を解決する環境づくりを進めることができます。そのためには、市は縦割り行政を見直して支所機能を強化するなどの大幅な組織改革を進める必要があります。

西宮市政報告 かんの新聞 第11号 年4回発行

ジャーナリストの視点で 調べる・伝える

元産経新聞記者 保守系無所属



環境・景観への配慮を シンプルなデザイン求める
要望書では、名神湾岸連絡線について「阪神高速3号神戸線や国道43号の慢性的な渋滞解消、臨海部の沿道環境の改善のために早期建設が必要な道路」との認識を示しました。そのうえで「周辺の住環境や景観に与える影響が大きい」として環境と景観への配慮を求めました。

景観については配慮してほしい項目を列挙。陸上区間については

長大な構造物としての圧迫感を緩和することを重視し、①橋脚の間隔を広げる②橋げたの厚みを薄く

する③高架下や沿道は、緑化や電線の地中化ですつきりとした潤い

のある景観を創出するなど検討を求めていました。

海上区間の橋については、橋にかかる景観を阻害しないよう

にするため、



コロワ甲子園の売り場構成

階数	特徴
4~6階・屋上	駐車場
3階	家電量販店、趣味雑貨、レストラン・フードコートなど
2階	ファッショントリアル、ファッショントリアル雑貨、カフェ、各種サービスなど
1階	ファッショントリアル、ファッショントリアル雑貨、生活雑貨、レストランなど
地下1階	生活雑貨、ドラッグストア、ファッショントリアル、書籍、各種サービスなど
地下2階	スーパーマーケット(イオンリテール)

■コロワ甲子園のイメージ図(三菱地所提供)

名称は「コロワ甲子園」 イオン甲子園店休業後の新商業施設

今春、開業

三菱地所は平成29年12月、阪神甲子園駅前の大型商業施設「イオン甲子園店」休業後の新商業施設の名称について

「コロワ甲子園」に決めました。今年春の大型連休に開業する予定。

三菱地所は平成29年2月、イオン甲子園店の施設と土地を事実上、買収。現在、施設の改裝工事を進めています。「コロワ」は毎日が楽しくなる「コロワ、ワクワク」するような施設を目指して名づけたとしています。

■コロワ甲子園のイメージ図(三菱地所提供)

かんの コラム 11

甲子園浜の打ち上げ花火全面禁止に尽力 浜甲子園町会の泉敏夫会長

花火禁止区域を指定できる「快適な市民生活の確保に関する条例」改正案が平成29年12月定例会で可決しました。これを受け、市は甲子園浜と御前浜、香櫻園浜の3地区を花火禁止区域に指定する方針で、今年7月から3地区での打ち上げ花火が全面禁止になる見通しです。

甲子園浜に隣接する浜甲子園町会の泉敏夫会長は「地域の大問題の解決に道筋ができました。県や市、警察、各種団体、多くの会員のご協力に心から感謝したい」と喜んでいます。

浜甲子園町会によると、昭和50年代末ごろから、甲子園浜での打ち上げ花火が急増し、住民から「深夜まで騒音がやまず、眠れない」「多くの人の騒ぎ声が響く」「花火の燃えカスが自宅の敷地に落ちており、火事が心配」などの声が寄せられました。

このため、浜甲子園町会は夜間パトロールを行うとともに、海岸部の打ち上げ花火の全面禁止を求める活動を続けてきました。泉さんは「条例改正の趣旨を広く知ってもらうため活動を続けたい」と話しています。

泉さんは大正13年に生まれ、昭和21年に浜甲子園に移り住みました。昭和51年に町会長に就任。大学でフランス語やフランス文学を教えながら、浜甲子園健康幼稚園の理事長

を務め、障害者福祉にも熱心に取り組んできました。

甲子園浜を兵庫県の埋め立て計画から

守るため、地域住民2004人が県を相手取って埋め立て計画の取り消しなどを求めた訴訟では、泉さんは個人としても町会長としても強く支援しました。昭和57年、県との和解が成立し、県が自然海岸を残し、埋め立て事業については面積を減らして沖合で行うことになりました。

泉さんははじめとする浜甲子園町会の会員らは甲子園浜に乗り入れたり、沖合を走る水上バイクが騒音をまき散らし、浜で遊ぶ子供たちやウインドサーファーの安全を脅かしていることを深刻に受け止めて、規制の強化を求める活動も続けています。

泉さんは「甲子園浜の干潟にはシギやチドリなど多くの渡り鳥が飛来し、カニや貝なども数多く生息しており、子供たちが自然を学ぶ絶好の場所です。素晴らしい環境を残すために引き続き取り組みたい」と意欲を燃やしています。



■泉敏夫さん

テーマは①武力攻撃から市民を守るために、3項目。今村岳司市長から市幹部が答弁しました。

私は平成29年12月6日、西宮市議会12月定例会で一般質問をしました。

一般質問 避難訓練の支援を

「武力攻撃から市民を守るために、3項目。今村岳司市長から市幹部が答弁しました。

私は答弁で避難訓練について質問しました。

市は答弁で避難訓練について「多くの市民が弾道ミサイル対応への理解を深めることができた」と評価。新たに訓練の実施を希望する地域もあり、地域や学校で行う訓練などの取り組みを支援することとしています。

教育委員会は文部科学省からの「北朝鮮による弾道ミサイル発射に係る対応について」の文書に沿って、各学校で危機管理マニュアル、学校安全計画の見直しと安全確保策についての全教職員の共通理解を図っていることを説明。「校長会議や防災教育担当者会において周知徹底を図る」と答弁しました。

消防局は平成27年度から、化学剤や生物剤による災害対応の部隊訓練を行い、物質による災害対応の消防局の対応要領」を定め、職員に周知させていると説明しました。

「武力攻撃災害発生時における消防局の対応要領」を定め、職員に周知させていると説明しました。

武力攻撃災害に対応した資機材を充実させるとともに、平成30年度に西宮警察署との合同訓練を計画していることを明らかにしました。

市は答弁で避難訓練について質問しました。

市は答弁で避難訓練について「多くの市民が弾道ミサイル対応への理解を深めることができた」と評価。新たに訓練の実施を希望する地域もあり、地域や学校で行う訓練などの取り組みを支援することとしています。

教育委員会は文部科学省からの「北朝鮮による弾道ミサイル発射に係る対応について」の文書に沿って、各学校で危機管理マニュアル、学校安全計画の見直しと安全確保策についての全教職員の共通理解を図っていることを説明。「校長会議や防災教育担当者会において周知徹底を図る」と答弁しました。

消防局は平成27年度から、化学剤や生物剤による災害対応の部隊訓練を行い、「武力攻撃災害発生時における消防局の対応要領」を定め、職員に周知させていると説明しました。

武力攻撃災害に対応した資機材を充実させるとともに、平成30年度に西宮警察署との合同訓練を計画していることを明らかにしました。

上下水道局は上下水道局と市に水を供給している阪神水道企業団、兵庫県営水道のいずれもが水道施設への破壊活動を防ぐため、浄水場や配水池などの全ての施設で警備の強化、防護対策に取り組んでいます。赤外線センサーなどの機械警備機器を設置するなどの取り組みを紹介しました。

上下水道局は上下水道局と市に水を供給している阪神水道企業団、兵庫県営水道のいずれもが水道施設への破壊活動を防ぐため、浄水場や配水池などの全ての施設で警備の強化、防護対策に取り組んでいます。赤外線センサーなどの機械警備機器を設置するなどの取り組みを紹介しました。

上下水道局は上下水道局と市に水を供給している阪神水道企業団、兵庫県営水道のいずれもが水道施設への破壊活動を防ぐため、浄水場や配水池などの全ての施設で警備の強化、防護対策に取り組んでいます。赤外線センサーなどの機械警備機器を設置するなどの取り組みを紹介しました。



■フェンスの上に設置されている赤外線センサー=鳴尾浄水場

協会事務局が平成29年5月、案内所から物品販売の売上金を集金した際、約34万円がなくなっていることが判明したとしています。6月、西宮警察署に通報し、8月末で「劣悪な労働環境」などを理由に案内所を閉鎖しました。

西宮観光協会について

市が不明金で反省を表明

「西宮観光協会について」では、西宮観光協会が阪急西宮北口駅の構内で運営していた観光案内所の売上金の一部がなくなる事件が発生し、その経緯に疑惑があることから質問しました。

協会は任意団体で、市の補助金を受けた観光事業を行っています。協会によると、内所を閉鎖していました。

西宮観光協会についてでは、西宮観光協会が阪急西宮北口駅の構内で運営していた観光案内所の売上金の一部がなくなる事件が発生し、その経緯に疑惑があることから質問しました。

協会は任意団体で、市の補助金を受けた観光事業を行っています。協会によると、内所を閉鎖していました。

西宮観光協会についてでは、西宮観光協会が阪急西宮北口駅の構内で運営していた観光案内所の売上金の一部がなくなる事件が発生し、その経緯に疑惑があることから質問しました。

協会は関係者から事情を聴取しましたが、現在まで原因を特定できません。協会は平成29年7月の総会でこの問題を報告して謝罪し、再発防止策を講じる方針を表明しました。

協会は関係者から事情を聴取しましたが、現在まで原因を特定できません。協会は平成29年7月の総会でこの問題を報告して謝罪し、再発防止策を講じる方針を表明しました。

協会は案内所でのずさんな現金管理を指摘して協会を指導する立場にある市の責任を問い合わせ、不明金問題と案内所の閉鎖の関係について質問しました。

市は不明金問題について「協会事務局の金銭管理体制が脆弱であったことが発生の原因と考えており、市からの指導が不十分であったと深く反省している」と答弁しました。

今後の焦点は両市の費用の負担割合です。処理施設を廃止できる芦屋市の方が圧倒的にメリットが大きいという指摘があります。私は本市がメリットを公平に享受できるようにするため、どのような交渉を実施するかを質問しました。

市は「負担の区分を明確にして広域化のメリットである経費削減効果を両市が公平に享受できるように費用を分担する」とが基本的な考え方。両市が納得でき、かつ市民や議会の理解を得られる公平な負担割合を設定できるよう議論を尽くす」と答弁しました。



■閉鎖された観光案内所=阪急西宮北口駅(西宮市提供)

と答弁しました。案内所の閉鎖については「不明金の問題と直接の関係はない」としています。

一般質問 公平な負担割合の設定を

ごみ処理広域化について

と答弁しました。案内所の閉鎖については「不明金の問題と直接の関係はない」としています。